

ご 挨 拶

対外経済貿易大学学長 王 稼琼 教授

2016年6月6日、7日の両日、東京において、対外経済貿易大学と東京経済大学交流30周年記念学術フォーラムが開催されました。経済の研究者、教員、学生など総勢300人以上が当フォーラムに出席され、中日両国における文化や学術交流、直面する経済の課題及び環境と資源の問題に関する研究発表を行いました。三つのパネルディスカッションにおいて、中日両国文化・経済協力と互利共栄のため、叡智に富んだ両国の専門家や研究者の白熱した議論の姿は、今でも鮮明に覚えております。

東京経済大学と対外経済貿易大学の提携は歴史が長く、信頼関係がもっとも深い海外提携校の一枚でございます。1984年、両校交流協定を締結して以来、対外経済貿易大学と東京経済大学は大変有意義な友好交流の道を進んでまいりました。この30年、両校は学部生、博士課程前期生、博士課程後期生、教員など各レベルの学術交流及び教育提携を積極的に行い、両大学間の人材育成の交流体制を確立し、ますます強固なものにしてまいりました。そして現在、学生の交流、教員の派遣及び共同研究などの面において大きな成果を収めております。これまでのところ、40名以上の対外経済貿易大学の教員が東京経済大学に赴任し、講義および研究を行っております。また東京経済大学からも30名以上の教員が対外経済貿易大学に赴任され、講義や、研究をなさっています。また、交換留学のプロジェクトは両校の学部生、修士課程の学生、博士課程の学生などに得難い機会を与えております。

「団結は力なり」と言う言葉がありますが、30年間の協力関係において、相互互惠、相互尊重及び相互理解を貫いた協力体制の模範を確立したと言えます。両校は高等教育機関として、積極的な交流と確実な協力を通じて、経済貿易の連携や科学研究、文化交流、ひいては社会貢献の促進作用を十分に発揮してまいりました。両校は中日両国の国民の相互理解を一層深め、経済共栄や、共同発展に対し多大な貢献をし、さらに中日両国の人文交流、平和と友情の種を蒔くことにおいても重要な役割を果たしております。

「過去たるものは皆未来の序章になる」という言葉のとおり、中日国交正常化以来45周年、人文交流の伝統が受け継がれつつ、貿易の道もますます広がる今日、より高度な国際経済貿易の人材を育成する高等教育機関として、我々が担う使命は、ますます重くなっております。両校の今後の共同発展に期待するところであります。

今回のフォーラムを契機に、両校は各々の良好な資源の有効活用により、相互利益をより拡大し、教育、研究、共同プロジェクトなどの領域における交流と協力を深め、両校の国際

ご 挨拶

化に引き続き原動力を与えていくことができるよう期待しております。

また、対外経済貿易大学と東京経済大学は相互互恵関係にあるだけでなく、心が通じる友人として、力を合わせ、双方の知恵を凝集し、運命共同体を作り、手を携えて両校の共同発展の青写真を描いていくことを期待しております。

両校が今後も、交流の輪を広げ、学術、文化、教育資源のやりとりを通じ、両国国民の文化教育の交流と、中日両国の経済貿易交流と協力に新しい契機をもたらし、中日国交の友好や共同発展のための両国国民の共通認識の上にさらなる「暖かい力」と「プラスエネルギー」を注いでいくことを心より願っております。

二〇一七年六月一日